

5月10日までの株式相場見通し

- * 日経平均 35,600~40,000円 TOPIX 2,520~2,750
- * 期待材料 新年度の好業績予想の発表 日本経済と企業変革の期待 半導体設備投資の増加
- * 不安材料 エネルギー価格上昇 米国などの金利高止まり 国内外の政局不安

【米国金融政策に注意】米国の物価上昇率の再上昇懸念と利下げ先送り観測が高まっており、その結果として各国通貨に対するドル高が進展している。また、自国通貨安が進展した国においては、インフレ再燃懸念が高まっており、インドネシアは通貨防衛を目的に先行して利上げに転じた。5月1日のFOMCの結果及びパウエルFRB議長の見聞が、米国の利下げ観測を一段と後退させるものであった場合には、ドルの一段高が進展すると共に、各国の金融政策が再度引き締め方向に転じる可能性が高まり、リスクオフの動きが強まることも想定される。

【調整局面長期化の可能性も株高基調は継続】日本株についても、海外の金融政策次第では調整局面が長期化する可能性はある。しかしながら、想定を上回る賃上げ及び、日本企業の資本コストや株価を意識した経営の強化など、ここまでの株高を支えてきた主要因は不変と思われ、調整局面を経ながらの株高基調は継続するものと想定している。

【決算発表に伴い個別株物色が強まる展開を想定】ここまで発表された決算においては、サプライチェーン混乱時に企業が先行発注した過剰在庫の削減が一巡しつつあることを踏まえて、業績改善計画を発表した電子部品企業の株価が反転した。一方で、EV投資の減速を受けたFA関連企業の株価が下落する動きがみられた。当面の日本株については好業績期待は高く、株価調整局面では競争力の高い企業の押し目買いを狙いたい。(4月25日現在、多功 毅)

今週の予定

	国内	海外
4/30 (火)	3月鉱工業生産(8:50) 決算:商船三井(9104)など 外国為替平衡操作の実施状況 介入実績(19:00)	[中]4月財新製造業PMI(10:45) [欧]4月消費者物価指数速報値(18:00) [米]FOMC(~1日) [米]4月消費者信頼感指数(23:00)
5/1(水)	決算:三井物産(8031)など	[米]4月ISM製造業景況指数(23:00)
2(木)	決算:三菱商事(8058)など	[仏]経済協力開発機構閣僚理事会(~3日)
3(金)	憲法記念日 Pet博2024幕張(~5日)	[米]4月雇用統計(21:30) [米]4月ISM非製造業景況指数(23:00)
4(土)	みどりの日	[米]競馬・ケンタッキーダービー
5(日)	こどもの日	[パナマ]大統領選挙
6(月)	振替休日	[中]4月財新サービス業PMI(10:45)
7(火)	決算:任天堂(7974)など	[露]大統領就任式
8(水)	決算:三菱重工(7011)、トヨタ自動車(7203)、伊藤忠(8001)など	[スウェーデン]中央銀行、政策金利(16:30) [ブラジル]中央銀行、政策金利(30:30)
9(木)	決算:日本製鉄(5401)など	[英]中央銀行、政策金利(20:00)
10(金)	マイナーSQ 4月景気ウォッチャー調査(14:00) 決算:東京エレクトロン(8035)、三菱地所(8802)、NTT(9432)など	[英]1-3月期GDP速報値(15:00) [ブラジル]4月IBGE消費者物価指数(21:00) [米]5月ミシガン大学消費者態度指数速報値(23:00)
11(土)	鵜飼開き	[中]4月消費者物価指数(10:30)
12(日)	大相撲・夏場所(~26日)	[リトアニア]大統領選挙

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

今週の参考銘柄 **富士フィルムホールディングス (4901)** 東証プライム



	22年3月期 (百万円)	前年比	23年3月期 (百万円)	前年比	24年3月期(予) (百万円)	前年比	株価(4/25)	3,323 円
売上高	2,525,773	15.2%	2,859,041	13.2%	2,960,000	3.5%	業種	化学
営業利益	229,702	38.8%	273,079	18.9%	277,000	1.4%	時価総額	41,334 億円
税引前利益	260,446	10.4%	282,224	8.4%	310,000	9.8%	PER(予想)	16.60 倍
当期純利益	211,180	16.5%	219,422	3.9%	240,000	9.4%	PBR(実績)	1.34 倍
EPS(円)	175.78		182.40		199.33		ROE(実績)	8.33 %
配当金(円)	36.7		43.3		50.0		配当利回り(予想)	1.50 %
							担当	志田 憲太郎

(注) 24年4月1日付で1:3の株式分割が行われており、EPSおよび配当金は遡及修正している

出所: 業績に関する数値は決算短信より

【変化を続ける企業】 写真フィルムを本業としてきたが、2000年以降の急速な市場縮小によりフィルムからデジカメやカラープリンタなどデジタル製品に業態を転換、その後デジカメからスマホへ需要が移ると、ヘルスケアを主軸に据えるなど、コア技術を守りながらも時代に合わせて事業構造を変え成長を続けている。現在は、メディカルシステム、バイオCDMOなどのヘルスケア、ディスプレイ材料、半導体材料などのマテリアルズ、オフィス向け複合機や業務用印刷機のビジネスイノベーション、インスタントカメラやミラーレスデジカメのイメージングの4セグメントで事業を展開している。23年3月期のセグメント別売上は、ヘルスケアが32.5%、マテリアルズが23.9%、ビジネスイノベーションが29.3%、イメージングが14.3%。

【中計を前倒し達成】 24年3月期を最終年度とした前中期経営計画では、売上・営業利益の目標を1年前倒しで達成した上、24年3月期も売上・利益ともに過去最高を更新する見込みとしている。文書電子化やテレワークの浸透などにより複合機などのボリュームは減少、ディスプレイ材料の苦戦などもあったが、メディカルシステムやイメージングがけん引した。31年3月期を最終年度とした新中期経営計画では、27年3月期に売上3兆4,500億円(年平均成長率5.2%)、営業利益3,600億円(同9.1%)とし、最終年度の31年3月期には売上4兆円、営業利益率を24年3月期計画の9.4%から15%以上へ引き上げる目標を挙げている。27年3月期まではバイオCDMO・半導体材料の積極投資を実施し、28年3月期以降にそのリターンを創出し目標の達成を目指す。

【ヘルスケアが成長ドライバー】 31年3月期には売上比率50%を目標としているヘルスケア事業は、X線画像診断や内視鏡などのメディカルシステムを主軸に、バイオCDMOを大きく成長させる戦略としている。バイオCDMOは、医薬品の開発・製造を受託する事業で、大手製薬は新薬開発コストの増加により製造をアウトソーシングすることが増加していることを受け、強化している。向こう3年は投資費用が利益を圧迫するが、利益率は年を追うごとに改善していく計画。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(4/25)	コメント
ABC マート (2670) 東証プライム 3,102 円	24年2月期通期決算は前年同期比 18.7%増収、31.6%営業増益。日本、韓国とも人流回復やインバウンドが貢献し既存店が好調に推移。「GrandStage」業態などの大型店出店拡大が、インバウンド獲得やアパレルの拡販などにも寄与した。今期は国内既存店売上高 3.1%増、インバウンド売上は 23 年後半の水準の継続、前期末在庫の適正化による粗利益率の改善を想定し、6.3%増収、5.4%営業増益を計画。(多功 毅)
ハローズ (2742) 東証プライム 4,615 円	広島県を地盤に中国・四国地方に 24 時間営業の食品スーパーを展開。24 年 2 月期通期決算は前年同期比 12.3%増収、20.1%営業増益。既存店売上高は 7.9%増、コロナ前の 20 年 2 月期比 16.8%増と好調。低価格販売施策は継続したうえで、玉子の特売抑制などもあり粗利益率が向上。人件費は増加したが増収効果で吸収し販管費率が低下。これらを受けて営業利益率は過去最高を更新。今期は既存店売上高を前年比横ばい以上、新規出店 4 店、増床を伴う改装 7 店などを前提に 3.2%増収、0.8%営業増益を計画。(多功 毅)
中外製薬 (4519) 東証プライム 4,860 円	24 年 12 月期 1Q (1-3 月) 決算は非経常事項などを調整したコアベースで前年同期比 24.1%減収、3.1%営業減益。国内でコロナ治療剤「ロナプリーブ」の政府納入が終了したことや薬価改定影響などで大幅減収となったが、利益率が前年同期を大きく上回り営業利益は微減にとどまった。原価率の高い「ロナプリーブ」の販売がなくなり、粗利率が改善した。コア営業利益、コア最終利益が過去最高となる通期見通しは変更していない。(志田 憲太郎)
サイバー エージェント (4751) 東証プライム 976.5 円	24 年 9 月期 2Q 累計 (10-3 月) 決算は前年同期比 12.4%増収、56.0%営業増益、最終損益は 3.4 倍。四半期ベースで 2Q (1-3 月) は最も売上が大きくなる傾向の期間ではあるが、前年同期比でも 10%増収となり四半期として売上は過去最高を更新した。ゲーム事業で、「ウマ娘」の 3 周年イベントや PS5 向けソフトの販売が好調だったほか、ABEMA TV への投資以来、赤字が続いていたメディア事業が、初の四半期黒字化を達成した。(志田 憲太郎)
アドテック プラズマ テクノロジー (6668) 東証スタンダード 1,302 円	半導体製造装置向けプラズマ用高周波電源を展開。24 年 8 月期 2Q 累計 (9-2 月) 決算は前年同期比 18.5%減収、61.8%営業減益。メモリ中心に半導体向けの受注環境が改善せず、通期計画を下方修正した。メモリ投資は 24 年後半から回復傾向となり、ロジックとともに 25 年に本格回復見込み。3 ナノ以下の微細化に対応する業界最速レベルの新型電源システムを開発。客先で評価が行われており、半導体の市況回復局面へ向けて準備を進めている。(松本 直志)
高島屋 (8233) 東証プライム 2,188.0 円	24 年 2 月期通期決算は前年同期比 5.1%増収、41.3%営業増益。免税によるインバウンド売上の拡大や品揃え、販売力強化、コスト構造改革の推進などで大幅増益となり過去最高益を更新した。高額品がけん引しインバウンド売上は前年同期比 2.7 倍の 687 億円へ拡大。国内顧客向け売上も婦人服、紳士服、化粧品などファッション関連中心に増加しコロナ前を上回った。今期は前年同期比 6.6%増収、8.8%営業増益計画。インバウンド売上は 850 億円へ一段増となり、国内顧客向けも増収見込み。(松本 直志)

いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

山和証券店舗網

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巢鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巢鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号
加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大1.1990% (ただし約定代金230,000円以下の場合は最大2,750円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室